

第1学年 技術・家庭科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金) 4校時
学 級 1年A組
(男子17名、女子14名、計31名)
場 所 一関市立千厩中学校調理室
授業者 教諭 鈴木 志 保

1 題材名 食品の選択 「食品添加物について考えよう」

2 題材について

(1) 教材について

中学生の3年間は生涯の健康を支える身体をつくるためにもきわめて重要な時期である。しかし、今日の日本の食を取り巻く状況を見ると、いつでもどこでも簡単に食べられる食品が多く出回り、食欲に任せて食べる子どもも増えてきており、その影響は健康面だけでなく精神面にまで及んでいると言われている。また、輸入食品や工業製品としての食品の氾濫は、食としての本来の姿を失わせ、季節感や地域性もなくしてきてしまっている。

このような食を巡る状況の中で、適切な食生活のあり方を学ばせ、身につけさせることは、生活の自立のためにはもちろん、生涯にわたり健康な生活を送るためにも重要なことである。特に加工食品に使用されている食品添加物については、摂取の仕方によっては発がん性が指摘され、染色体への異常やアレルギー疾患との関わりも取りざたされている。しかしながら、健康に関わる様々な問題が取り上げられているにもかかわらず、それを意識して食品を選択しようとする傾向はあまり見られない。

そこで、自立した消費者の一人として、食品の安全性、加工食品の表示の見方、食品添加物の種類など、常に新しい知識や情報を得ることの必要性に気づかせる必要がある。そして、自分の食生活に応じた適切な食品の選択と購入の方法を身につけ、有害な食品から身を守り、本当に豊かな食生活を求める態度を養うことが本題材のねらいである。

(2) 生徒について

生徒たちは、家庭科の中で「食」に関する学習への興味・関心が高く、授業に対しても意欲的に取り組んでいる。しかし、実際に食品を購入する際に注意していることを調査した結果、複数回答ではあったが「見た目」や「おいしさ」で食品を選ぶと答えた生徒が多く、「消費期限」や「値段」には注意するものの、どのような「材料」が使われているかを意識して選択すると答えた生徒は少なかった。この調査から品質表示などの情報は何となく目にしている程度ということがわかった。

そこで、生鮮食品と加工食品の学習を通して現在の食生活の問題点について考えさせることにより、自分たちの食生活のあり方を改善していこうという態度へつなげていく必要がある。

(3) 指導について

食品を選ぶ際にはその特徴を知り、調理の目的に合ったものを選ぶことが大切であり、生鮮食品と加工食品では選ぶ観点が違ってくる。食品を購入するにあたっては、表示やマークなどパッケージから情報を読み取り、品質が良く、より安全な食材を選ぶことを理解させることをねらいとしている。また、食品添加物については、使用目的や安全性、問題点などについて理解させることをねらいとしている。そこで、本時の授業では、食品添加物の実験を通して、普段自分が口にしているものに興味・関心を持ち、また、自分の健康を守るためには食品表示から得られる情報を活用することが大切であることに気づかせ、よりよい食品を選択していこうとする態度を養いたい。

3 技術・家庭科における「活用を意識した学習活動」のとらえ

技術・家庭科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

- (1) 習得した知識及び技能が実生活につながるような学習活動
- (2) 課題が解決できるような学習活動

4 題材の指導目標

(1) 【生活や技術への関心・意欲・態度】

身近な食品やその食品の表示に関心を持ち、適切な食品選択をしようとする。

(2) 【生活を工夫し創造する能力】

食品の選択について学んだ知識と技術を活用して考え、工夫している。

(3) 【生活の技能】

身近な食品を選択するために必要な情報を収集・整理することができる。

(4) 【生活や技術についての知識・理解】

身近な食品の品質を見分ける観点について理解することができる。

5 題材の指導計画（5時間扱い）

単 元	時	学習内容	評価計画				「知識・技能の 習得」の場面	「活用を意識 した学習活 動」の場面
			生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術に ついての知 識・理解		
食 品 の 選 択	2	生鮮食品、加工食品について考えよう	◆身近な食品を用途に応じて適切に選択しようとしている。			◆身近な食品を、生鮮食品と加工食品に分類することができる。	○生鮮食品・加工食品それぞれの特徴を理解させる。	★それぞれの食品の特徴や用途を説明させる。
	2	加工食品の選び方について考えよう 【本時2時間目】	◆食品表示の読み取りと場面に応じた食品選択について関心をもって取り組もうとする。 ◆食品添加物について関心を持ち、適切な食品選択をしようとする。			◆表示を比較して内容の違いを見つけ、その理由について考え、説明できる。	◆品質表示、マークを読み取ることができる。 ◆食品添加物の種類や使用目的、安全性と問題点についてワークシートにまとめることができる。	○食品添加物のはたらきを理解させる。 ○品質表示やマークの意味を理解させる。

	食品の保存を 考えよう	◆食品の種類に よって品質の保 持や安全な保存 方法に違いがあ ることに気づき、 その理由を考え ようとしている。	◆食品に合わ せて品質を保 持し、安全な保 存方法を具体 的に工夫でき る。			○食品の種類 による保存方 法を理解させ る。	★具体的な食 品の保存方法 を説明させ る。
1							

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 食品添加物について関心を持ち、適切な食品選択をしようとしている。
- ② 食品添加物の種類や使用目的、安全性と問題点についてワークシートにまとめることができる。

(2) 本時の構想

現代の食生活にとってなくてはならない食品添加物だが、その危険性も指摘されている。豆腐やアイスクリームのように、添加物があるからこそおいしく食べることのできるものがあるという利点も押さえつつ、着色料、香料、酸味料を使ってのオレンジドリンク作りや着色料を使っての羊毛染色の実験を通して、その危険性も実感させたい。また、自分が口にしてしているものには何が含まれているかを知る必要性にも気づかせ、今後の食品選択の観点を自分の言葉で説明させたい。

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒の手 だて
生活や技術への 関心・意 欲・態度	食品添加物について関心を持ち、今までの自分の食生活を振り返ったうえで、今後の食品選択の際参考にしようとしている。	食品添加物について関心を持ち、適切な食品選択をしようとしている。 評価①	個別に具体的なアドバイスを行う。
生活や技術に ついての知 識・理解	食品表示から食品添加物の種類や使用目的がわかり、安全性と問題点について自分のことばでまとめることができる。	食品添加物の種類や使用目的、安全性と問題点についてワークシートにまとめることができる。 評価②	具体的な食品例をあげ、関連づけて考えさせる。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)、活用の場面(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導入 5分	1 学習課題の提示	1 学習課題を把握する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【学習課題】食品添加物の種類やその利点と問題点を考えよう</p> </div>			
展開 35分	2 表示の読みとり 3 食品添加物の種類と用途 4 食品添加物のメリット 5 食品添加物のデメリット	2 2種類のオレンジドリンクを比べ、同じような色でもなぜ味が違うのかを見て、味見して、予想した後、品質表示で確認をする。 3 食品添加物でオレンジドリンクを作って試飲する実験から、食品添加物の種類と用途について考える。 4 プリントから食品添加物のメリットについてまとめる。 ・豆腐やアイスクリームの添加物から考える(添加物の必要性)。 5 毛糸を着色料と果汁につけ、染色の違いを見る実験から添加物の危険性についてまとめる。	◎食品ではなさそうなものは添加物であることを強調する。 ○表示を正確に読み取ることができる。 ○添加物の種類と使用目的がわかる。 ○食品添加物の必要性、問題点がわかる。 ■自分のことばでまとめることができたか。(評価②) ◎羊毛は人の胃と似たような成分でできていることから、添加物を摂りすぎるとどうなるかを考えさせる。
終結 10分	6 まとめ	6 今日の感想をまとめる。 ・今後の食生活で自分ができることを考える。 ・ワークシート上で2, 3種類のハムから一つを選び、なぜそれを選んだのか理由を記入する。	★食品選択の観点に食品添加物の有無も加えることができる。 ■プリントにまとめて発表する(評価①)